

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3771600636		
法人名	有限会社新名防災設備		
事業所名	グループホーム 青い鳥		
所在地	香川県仲多度郡多度津町葛原451-1		
自己評価作成日	平成28年9月8日	評価結果市町受理日	平成28年12月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当施設の周囲には田園が広がり、1年を通じて季節の移り変わりを感じられる場所にありません。職員は専門職として、知識・経験も豊富にあります。施設を第2の家として、家庭的な雰囲気作りを大切に、本人らしく穏やかに暮らせるように努めております。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社astream alliance		
所在地	香川県さぬき市津田町鶴羽2360番地111		
訪問調査日	平成28年 9月 29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

<p>家々が点在する静かな田園風景の中、2階建ての瀟洒な洋館がグループホーム青い鳥の外観であり、各階に1ユニット9名の利用者が生活している。職員は常に「優しく接します」「寂しくさせません」「一緒に行動いたします」「本人が理解できる接し方をいたします」の理念に基づいた介護を実践している。事業所は第2の家として家庭的な雰囲気づくりと、ご本人らしく穏やかな暮らしを目標にして努力されている。利用者は笑い楽しく暮らし、職員は利用者と同じ楽しさを共有できるような実践、そして運営者は顧客(利用者・家族)満足を目指して、利用者と家族の幸せを徹底的に追求し続けている。</p>
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念4項を毎朝申し送り後に全員で復唱し共有している	毎朝のミーティング時に全員で理念の唱和している。理念がケアに反映していない場面には、お互いに指摘し合い修正し、管理者・職員全員が一致した理念に基づき統一した実践がされている	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域行事である草刈・水路掃除には毎年参加している。地域で生産している野菜やお米などを定期的に購入している	地域の自治会や行事には参加して近隣との連携を深めている。地元の野菜や米を購入したり貰い物をしたりする機会が多く、生産者自ら足を運ぶ機会が増え、交流が増している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部の方から相談があった場合などは専門職としての確にアドバイス出来るように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間を通し定期的に開催し参加者の方々と意見交換を行い新しいニーズの開拓とサービスの方向性を確認している	運営推進会議は町役場の担当職員・保健師・包括支援センターのケアマネジャーが必ず参加し、行政側との関係が密になされている。ご家族や職員以外に地域の代表者の参加が少ない傾向にあるようで、地域に参加を呼びかけるなど地域密着を増進されるよう望まれる	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連携を密に取れており管理者が町の介護保険事業計画策定委員を務めている事から協力関係が築かれている	町の担当者とは書類・電話・訪問等で一日何度も連絡を取り合っている。また福祉の代表者として行政に出来るだけ協力している	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については生活の安全を守る上で必要な場所にはついて行っているが開錠についても出来るように努めている	玄関を施錠しているが、外出をしたい要望が強いと思われる利用者には、利用者と職員は「一緒に行動します」の理念の通りに寄り添う行動をしている。行きたいときには行けるという状態は維持できている。点滴などには寄り添いを行い、拘束は行っていない。特筆は職員のメンタルケアを重視して管理者や責任者が適時声かけ話し合いをして職員の負担軽減に努めている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が介護倫理について理解を深めるのと同時に個々のメンタルケアも大切にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	希望者については関係各所と連携を取り希望に添えるように対応している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてはしっかりと時間を設けご家族には理解を深めて頂いた上で利用をして頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	所定の場所に「ご意見箱」を設置している。面会や担当者会の場でご意見をお伺いしている	ご意見箱を活用しての意見収集には限界があり、毎月一回の料金支払い時や担当者会議などを利用してご本人やご家族に職員が直接お伺いしている。ご家族からの要望や希望は少なく、外部調査のご家族アンケートやご家族が参加している会合と一緒に参加してご意見の収集に努め運営に反映されている	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を年1年～2回程度実施している	責任者が現場に詰めていることでスピード感をもち即決対応している。年に1回から2回の個人面談に加え、夜勤明けの職員へのメンタルケアを行うなど常に意見を聞く機会が設けられている	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する姿勢を確認し適材適所の人事で本人がやりがいを持てるように努めている。有給休暇・出産育児休暇などの制度も積極的に取得するように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に対しては研修期間を設けしっかりとしたベース作りに努めている。在職社員については希望があれば研修などにも参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば出来る限り参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	正確なアセスメントを行い希望ニーズと相違がないか確認している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	正確なアセスメントを行い希望ニーズを把握すると同時に施設での取り組みも理解して頂く		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門職として問題点を明確にし家族のニーズも踏まえた上で支援内容を提案している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事を一緒にして頂き在宅生活の雰囲気を作れるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に行きやすい雰囲気作りにも努め状態報告なども細かく行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設が交流の場に役立てるように努めている。外出支援なども家族とも相談し支援出来る範囲で行っている	墓参りなどでご本人やご家族からの外出の要望があれば個別に対応できている。外出先で知人と出会い喜んでいただとの報告を頂く。外出には特別感が必要とのポリシーに基づき、一瞬一瞬の喜びの連続を体験してもらうため、美味しいものや贅沢感を大切にした外出支援がなされている	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が集団生活の潤滑油になり利用者同士が支えあう関係づくりに努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関とも連携を図り経過をフォローしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望があれば出来る限り対応している。本人から訴えが困難な場合は職員間で検討し本人主体のサービスを提供している	些細な表情の変化などに配慮し、本人の意向把握に努められている。また日々の生活状態も詳細に記録されている。ご家族が面会時などに気付いた意向なども、ケアに反映されている。利用者の高齢虚弱化に伴い意向の把握や活気が溢れる支援が困難なケースも見られるが、出来る限りの工夫がなされている	個別の状況に配慮した中で、グループホームの特性を活かした利用者同士で協力してできる作業や楽しめる仕掛け等を通じて、さらに日々の当たり前の暮らしがより楽しく豊かになれるような取り組みに期待したい
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に正確なアセスメントを行い関係機関と情報共有を行い相違が無いように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常の状態との違いに早期に気づける観察力を身に付けその状態に対し必要な対応を行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議などで多職種と情報交換を行い状態に応じた介護計画を作成している	介護者側のアセスメント表(毎日のケア記録)やケース記録を活用してケアマネジャーがモニタリング・評価を行い計画に反映させている。担当者会議には本人や家族が参加し職員とともに話し合い、計画を実効性のあるものに近づけている	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録以外に支援記録・申し送りノートがあり職員間の情報共有に役立てられている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も仰ぎながら出来る限り柔軟な対応が出来るように努めている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が気軽に施設に足を運べるように努めボランティアの受け入れも積極的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては家族に一任している。協力病院以外の受診に関しては基本的に家族に協力を依頼している。協力病院の受診・往診については施設で対応し特変があればその都度家族に状態報告を行っている	かかりつけ医は本人や家族の意思が尊重されており、受診時の送迎等支援がなされている。協力病院が増えており、受診や往診を定期的に行うことで緊急の場合も適切な対応ができるようになってきている。また終末期の連携や精神科医の協力もあり多様な支援が受けられるようになってきている	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化は他職種とも共有しており状態により必要なサービスを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院機関とは連携を図っておりスムーズに退院後の生活が出来るよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせてその都度説明を行い家族の意向も確認し施設の認識と相違がないか共有を重ねている	終末期ケアを希望する本人や家族等に、取り組みはできるが積極的な医療行為を受けるには事業所としての限界があることをきちんと説明して意向の確認がなされている。ご希望の方には家族等の付き添いや宿泊の世話をするなど、職員や医療関係者と連携した支援が行われている	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人社員にはAEDの使用方法や急変時の対応方法の研修も行っている。その他にも個々に説明を行っている		
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(火災)を行っている。様々な災害に対して対応出来る準備が必要。食料備蓄は3日～7日分用意している	火災訓練は年2回消防署立会い実施している。その他の災害については机上訓練を含めて準備をしている。地域の特色である、ため池の決壊時には避難所として町の指定を受けている。食料の備蓄もあり、担当職員を決め対策に当たっている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門職としての知識や経験を活かし個々の状態に合った対応を行っている	入所から本人や家族に聞き取りを行い、よく理解したうえで本人を傷つけない対応が心掛けられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中には必ず選択肢を用意し感情を表現する手助けになるよう努める		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを個々のリズムに合わせる事は難しいが出来る限り希望に添えられるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に(2か月に1回)カットも行い個々に合った髪型になるように心掛けている。服装についても季節・本人に合ったものを用意するように努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態は個々の状態・ニーズに合わせて細かく種類を設けている。利用者の好みも把握し苦手な物は別メニューを用意している。食事時間はゆっくりと設け片付けも利用者と一緒にやっている	食事は調理専門のスタッフが在中しているので、食事作りには利用者はほとんど参加できないが、食事は利用者の状態や好みを反映して個別に作られている。食事時間はゆったりして、片づけは利用者ができるところを行い、その他は職員が行っている。おやつ作りには料理の雰囲気を楽しんでもらっている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などの状態は毎日把握しており食欲がない方などは別メニューなどを設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態によって誘導時間・回数などは異なっており個別的に対応している	毎日の排泄記録により排泄のパターンを把握して日中はトイレでの排泄を支援している。把握できない場合には時間的な排泄誘導を行う。夜間は個別にポータブルやパンツ・尿パットなどを使うが、朝衣類交換時には片づけている。排泄のコントロールは水分補給・センナ茶と極力薬に頼らない自然な排泄をおこなっている	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医などと相談を行いながら本人の負担が最小限になるようにコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2~3回実施しておりその中で個々の希望に応えられるように努めている。入浴出来ない方は清拭を行い足浴はほぼ毎日行っている	前回より入浴の実施日や時間を増やし、利用者の利便性を増している。入浴できない日には毎回清拭・足浴を一人一人に合わせて実施し、清潔と気分転換を図っている。重度化に備えて入浴設備を設置している	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠バランスが崩れている方には主治医と相談しながらコントロール出来るように努めている。それとは別に夜間足浴なども行い安眠ケアにも努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報などは全員が確認出来る所に保管しており変更などがあれば個々が確認している。服薬準備に関しても全ての4つの工程で別々の人間がチェックしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でできる役割作りに努め洗濯たたみ・食器拭きなどを行っている。おやつ作りなどもその日その日に希望を聞き相談しながら職員も一緒に楽しみを共有出来るように努めている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は(ドライブ)月に数回行っており時候・天候の良い日は地域に散歩に出掛けている	車に乗れる利用者には外出の機会を作り、少人数ので外食を楽しむ回数を増やしている。また、利用者個人としては家族とともにでかけるための送迎を行い支援している。移動の困難な方には戸外に誘導して外気に触れられるよう配慮している	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し本人が希望する場合は個人で所持する方もおり自動販売機でジュースなどを購入している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族などから希望があればその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中も過度な光量はいれず明る過ぎないように努めている。夜間に関しても精神的に落ち着けるように光量を調節している。室温は年間通して27度前後で推移している(通年エアコン使用)生活エリアは常に清潔を保つように努めている	共同使用の空間は快適に過ごせるよう採光・空調・温度を調整している。また静かで清潔感にあふれているが、全体に利用者が楽しめる掲示物が少なく生活感や明るい雰囲気づくりなどの工夫により、より快適な空間づくりができる	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニング・居室(プライベート)3エリアに大きく分かれており個々の生活リズムに合わせて過ごせるように努めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望される方はダンス・ベッド・ソファなど長年使い慣れた物を持参される	私物の持ち込みは自由で、個室には好みのものを、持ち込んでいる。部屋の入り口には目印があり、部屋の中は大型のダンスやベッド、椅子、テレビがあり過ごしやすく工夫されている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線には障害物は置かず極端な配置変更も極力避ける。日々の慣れた習慣を大切にしている		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念4項を毎朝申し送り後に全員で復唱し共有している
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として地域行事である草刈・水路掃除には毎年参加している。地域で生産している野菜やお米などを定期的に購入している
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部の方から相談があった場合などは専門職としての確にアドバイス出来るように努めている
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間を通し定期的に開催し参加者の方々と意見交換を行い新しいニーズの開拓とサービスの方向性を確認している
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連携を密に取れており管理者が町の介護保険事業計画策定委員を務めている事から協力関係が築かれている
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠については生活の安全を守る上で必要な場所にはついて行っているが開錠についても出来るように努めている
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が介護倫理について理解を深めるのと同時に個々のメンタルケアも大切にしている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	希望者については関係各所と連携を取り希望に添えるように対応している
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約についてはしっかりと時間を設けご家族には理解を深めて頂いた上で利用をして頂いている
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	所定の場所に「ご意見箱」を設置している。面会や担当者会の場でご意見をお伺いしている
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談を年1年～2回程度実施している
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する姿勢を確認し適材適所の人事で本人がやりがいを持てるように努めている。有給休暇・出産育児休暇などの制度も積極的に取得するように努めている
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に対しては研修期間を設けしっかりとしたベース作りに努めている。在職社員については希望があれば研修などにも参加している
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会があれば出来る限り参加している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	正確なアセスメントを行い希望ニーズと相違がないか確認している
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	正確なアセスメントを行い希望ニーズを把握するのと同時に施設での取り組みも理解して頂く
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	専門職として問題点を明確にし家族のニーズも踏まえた上で支援内容を提案している
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事を一緒にして頂き在宅生活の雰囲気を作れるように努めている
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に行きやすい雰囲気作りに努め状態報告なども細かく行っている
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設が交流の場に役立てるように努めている。外出支援なども家族とも相談し支援出来る範囲で行っている
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が集団生活の潤滑油になり利用者同士が支えあう関係作りに努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係機関とも連携を図り経過をフォローしている
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望があれば出来る限り対応している。本人から訴えが困難な場合は職員間で検討し本人主体のサービスを提供している
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前に正確なアセスメントを行い関係機関と情報共有を行い相違が無いように努めている
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常の状態との違いに早期に気づける観察力を身に付けその状態に対し必要な対応を行っている
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議などで多職種と情報交換を行い状態に応じた介護計画を作成している
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録以外に支援記録・申し送りノートがあり職員間の情報共有に役立てられている
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も仰ぎながら出来る限り柔軟な対応が出来るように努めている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が気軽に施設に足を運べるように努めボランティアの受け入れも積極的に行っている
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては家族に一任している。協力病院以外の受診に関しては基本的に家族に協力を依頼している。協力病院の受診・往診については施設で対応し特変があればその都度家族に状態報告を行っている
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態変化は他職種とも共有しており状態により必要なサービスを行っている
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から病院機関とは連携を図っておりスムーズに退院後の生活が出来るよう努めている
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に合わせてその都度説明を行い家族の意向も確認し施設の認識と相違がないか共有を重ねている
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新人社員にはAEDの使用方法や急変時の対応方法の研修も行っている。その他にも個々に説明を行っている
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練(火災)を行っている。様々な災害に対して対応出来る準備が必要。食料備蓄は3日～7日分用意している

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	専門職としての知識や経験を活かし個々の状態に合った対応を行っている
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中には必ず選択肢を用意し感情を表現する手助けになるよう努める
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全てを個々のリズムに合わせる事は難しいが出来る限り希望に添えられるように努めている
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に(2か月に1回)カットも行い個々に合った髪型になるように心掛けている。服装についても季節・本人に合ったものを用意するように努めている
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の形態は個々の状態・ニーズに合わせて細かく種類を設けている。利用者の好みも把握し苦手な物は別メニューを用意している。食事時間はゆっくりと設け片付けも利用者と一緒にしている
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量などの状態は毎日把握しており食欲がない方などは別メニューなどを設けている
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている



自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の状態によって誘導時間・回数などは異なっており個別的に対応している
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医などと相談を行いながら本人の負担が最小限になるようにコントロールしている
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2~3回実施しておりその中で個々の希望に応えられるように努めている。入浴出来ない方は清拭を行い足浴はほぼ毎日行っている
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠バランスが崩れている方には主治医と相談しながらコントロール出来るように努めている。それとは別に夜間足浴なども行い安眠ケアにも努めている
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報などは全員が確認出来る所に保管しており変更などがあれば個々が確認している。服薬準備に関しても全ての4つの工程で別々の人間がチェックしている
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でできる役割作りに努め洗濯たたみ・食器拭きなどを行っている。おやつ作りなどもその日その日に希望を聞き相談しながら職員も一緒に楽しみを共有出来るように努めている
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は(ドライブ)月に数回行っており時候・天候の良い日は地域に散歩に出掛けている

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談し本人が希望する場合は個人で所持する方もおり自動販売機でジュースなどを購入している
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人・家族などから希望があればその都度対応している
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中も過度な光量を入れず明る過ぎないように努めている。夜間に関しても精神的に落ち着けるように光量を調節している。室温は年間通して27度前後で推移している(通年エアコン使用)生活エリアは常に清潔を保つように努めている
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・ダイニング・居室(プライベート)3エリアに大きく分かれており個々の生活リズムに合わせて過ごせるように努めている
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	希望される方はタンス・ベッド・ソファなどなど長年使い慣れた物を持参される
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活動線には障害物は置かず極端な配置変更も極力避ける。日々の慣れた習慣を大切にしている